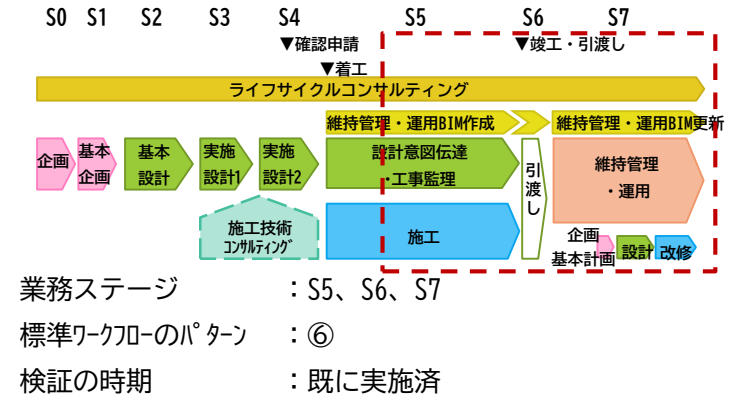


検証・課題分析等の全体概要

- 維持管理・運用段階BIMのモデル活用とBIMモデルを含むデジタル情報連携手法、および発注者メリットと利用目的の一例を示すことを目指し、維持管理・運用段階でのBIMの効果や価値について仮説をたて、BIMの「モデル定義と利用目的の分析」、およびBIMモデルとデジタル情報の活用についての効果検証を行う。
- また維持管理・運用BIMのモデル定義の策定とそのBIMモデルの作成を行い、維持管理・運用BIMやデジタル情報の技術連携の検証や整理、BIMモデルとデジタル情報の連携による発注者・関係者・データの利用者も含めた活用手法の検証を行う。

検証・分析の対象など



検証する定量的な効果とその目標

- 維持管理・運用BIMモデル定義の策定
 - 効果A) BIMデータ連携利用による合意形成円滑化
 - 目標: 打合せ時間20%減
 - 効果B) 維持管理・運用BIMデータ連携工数
 - 目標: 30%減
- デジタル情報連携技術の検証
 - 効果C) BIMとデジタルデータ連携による工数
 - 目標: 30%減
- データ利用者ごとのメリット創出と課題分析
 - 効果D) -1データ連携を利用した合意形成円滑化
 - 目標: 時間45%減
 - 効果D) -2維持管理での生産性向上
 - 目標: 時間30%減
 - 効果E) 多棟数管理を想定した維持管理の生産性向上
 - 目標: 時間20%減
 - 効果F) EIRデータ連携提案の円滑化
 - 目標: 提案作業の削減 10%減

分析する課題

- 課題A) 維持管理・運用BIMのモデル定義の策定
 - 既存建物に対する維持管理運用BIMモデル詳細度の課題分析、BIM実行計画 (BEP) の標準的な在り方や発注者情報要件 (EIR)
 - モデリング・入力ルールの課題分析
- 課題B) デジタル情報連携技術の検証
 - BIMデータ受け渡しにおける、関係者間の適正なデータ連携手法の課題分析
- 課題C) データ利用者ごとのメリット創出と課題分析
 - 発注者や関係者間の情報共有・伝達、BIMモデルを含むデジタル情報連携手法の課題分析
 - BIMとICT機器などの連携に関する技術的かつ生産性における課題分析
 - デジタル情報活用の有効性と課題分析

プロジェクトの概要

用途	事務所等 (ZEB改修済み)
床面積	2,446㎡
階数	地下1階 地上5階
構造種別	鉄筋コンクリート造 + 鉄骨造
区分	既存 (増改築・改修の設計・工事等 無)
提案者の役割	発注者、維持管理・運用BIM作成者、維持管理者・運用管理者
発注者の役割	建築物の所有者 (株式会社東急コミュニティー)

応募者の概要

代表応募者	東急建設(株)
共同応募者	(株) 東急コミュニティー

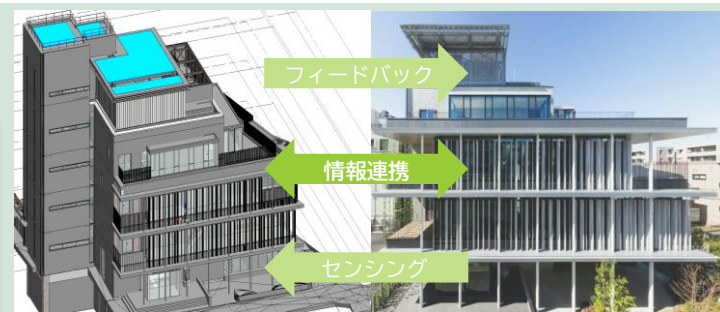


課題A 維持管理・運用BIMのモデル定義の策定

- Step1 : 維持管理・運用BIMの詳細度課題分析
- Step2 : BIM実行計画書・発注者情報要件への提言
- Step3 : 維持管理・運用BIMのモデリング手法確立

課題B デジタル情報連携技術の検証

- Step1 : BIMモデルと現実建物との接続形式の調査
- Step2 : デジタル情報連携の動作検証及び視認性の確認
- Step3 : 関係者間の適正なデジタル情報連携手法の確立



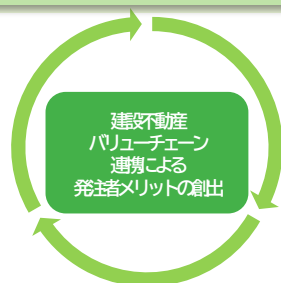
課題C データ利用者ごとのメリット創出と課題分析

- Step1 : 維持管理業務・建物利用者のニーズ調査と分析
- Step2 : デジタル情報活用による維持管理・運用手法確立
- Step3 : デジタル情報の利用者ごとのメリット創出

維持管理・運用BIMの標準化



東急建設



新しい維持管理手法の確立



東急コミュニティー

新しい価値提供によるシナジー創出

令和4年度 BIMを活用した建築生産・維持管理プロセス円滑化モデル事業 (パートナー事業型)